

## 区政会議の質問・意見に対する回答及びその後の対応

番号	年月	意見	
1	令和3年度12月 第2回区政会議	若年層の意識改革というところで、運営サイドとして活躍してもらうのも一つの手であると思う。 防災ボランティアから始まり地域の担い手につながっていく制度も提案したい。地域での居場づくりにもつながると思う。	若年層、子どもたち、中学生・高校生に一層の防災啓発を行い、災害時に活動の担い手になっていただくことは、災害に強いまちづくりを進める上でも大切だと考えています。令和4年4月から「地域防災・減災に関する連携強化事業 業務委託」を実施し、若年層を対象とした防災イベントの企画・運営を進めているほか、令和5年度には、地域と小学校が連携した合同防災訓練・防災授業を実施しました。
4	令和3年度12月 第2回区政会議	子どもたちを巻き込んで防災の取組をもっと広げ、地域の防災リーダーになってもらえるような育成というところに力を入れていただきたい。	
6	令和3年度12月 第2回区政会議	防災に関して、平日の日中に戦力になるのは、中高生。各学校で防災訓練をされていると思うが、地域と学校で合同で訓練もできたらと思う。	
7	令和3年度12月 第2回区政会議	防災の取組では、実際にシチュエーションすることが大事だと聞く。若年層の防災意識というところで、放課後など習い事やスポーツ活動をしている時に防災意識を持ってもらうため、塾やスポーツ団体に協力してもらい、防災訓練や指導者からハザードマップの案内をしてもらうなどの活動ができればいいと思う。	
8	令和4年度9月 第2回区政会議 (グループ討議)	防災訓練について、いつも地域に任せてるような感じで、もうマンネリの防災訓練になっている。避難場所を開設して集まって、良くできました、はい終わり。行政は地域で今回の訓練はこういうのを主体的に目標として上げてやってくれませんかとか、お願いしてほしい。そうすると、訓練の方法も違ってくると思う。それと、地域は逆で、行政に何を要望したらいいのか、どういうことを応えてくれるのか、そういうのを一番疑問に思う。実際、どういうことを具体的にしていくのかとか、というようなことはないのか、そこも伝えてほしい。	令和5年度から、地域防災訓練の実施にあたり、全地域一斉防災訓練を改め、共通訓練と個別訓練の選択制とし、個別訓練では、消防署や他機関が参加したり、学校と合同で防災訓練・防災授業をするなど、参加者がより楽しく体験でき、主体的に防災活動に携わることができるように取り組みました。今後とも、地域の特性や課題を応じた防災訓練ができるよう進めていきたいと考えています。
4	令和4年度3月 第4回区政会議	地活協を子どもたちが知る機会を作るべきでは？	本市では令和6年度から小学3年生を対象に町会活動内容を紹介した冊子「町会ってなあに？」を授業の一環で活用し啓発することとしています。4月に各学校に冊子を配付し、活用していただいております。
6	令和5年度12月 第3回区政会議 (グループ討議)	SOSを発信できない人々をつなぐためにも、小さく身近な地域での顔見知りの関係が重要だと思う。 コロナ禍で活動が制限され関係が切れてしまっているのをどう回復していくかが大事だと思う。	西淀川区総合相談連絡会(福祉・医療・介護の各分野の総合相談窓口で構成)において各機関の相互理解をふまえて「気づきのポイント」を話し合い、相談者のニーズを早期発見・介入や支援体制の構築ができることを目的として「に～よん相談機関連携シート」を令和6年3月に作成し、区職員を含め支援機関や事業所で活用しています。
7	令和5年度12月 第3回区政会議 (グループ討議)	異業種交流会を開催し、区制100周年に向けて企業からの意見を吸い上げると良いと思う。	地域住民・企業・ボランティア団体・NPO等メンバーの情報交換会「MAIDO(MAKE INNOVATION DOING)にしよど」を、令和6年10月18日に西淀川区社会福祉協議会との共催で開催しました。その情報交換会に高校生も参加し、西淀川区の未来に向けた意見交換を行っていただきました。
8	令和5年度12月 第3回区政会議 (グループ討議)	子どもたちの視点から区制100周年に向けた面白い取組を行うために、例えば、子ども版の区政会議を開催してはどうかと思う。	